

誤
り
易
き
語
法

誤り易き語法

目次

第一 動詞

〔一〕活用上の例……………	一
〔二〕自動詞を用ふべき所に他動詞を用ふる例……………	二
〔三〕他動詞を用ふべき所に自動詞を用ふる例……………	三
〔四〕動詞と用言との接續上の例……………	四
〔五〕動詞と名詞との接續上の例……………	五
〔六〕動詞と助動詞との接續上の例……………	六
〔七〕動詞と助詞との接續上の例……………	七

第二 形容詞

- 〔一〕活用上の例……………九
- 〔二〕形容詞ににを添ふる例……………九
- 〔三〕形容詞になを添ふる例……………一一
- 〔四〕形容詞にで、だを添ふる例……………一二
- 〔五〕形容詞と名詞、助動詞、助詞との接續上の例……………一三

第三 助動詞

- 〔一〕受身の例……………一五
- 〔二〕可能の例……………一六
- 〔三〕使役の例……………一七
- 〔四〕時の例……………一八

〔五〕なさる、いたす、まうす、こざる などの省かる例……一九

第四 助詞

〔一〕に が が となる例……………二一

〔二〕に が を となる例……………二二

〔三〕を が に となる例……………二四

〔四〕が が を となる例……………二五

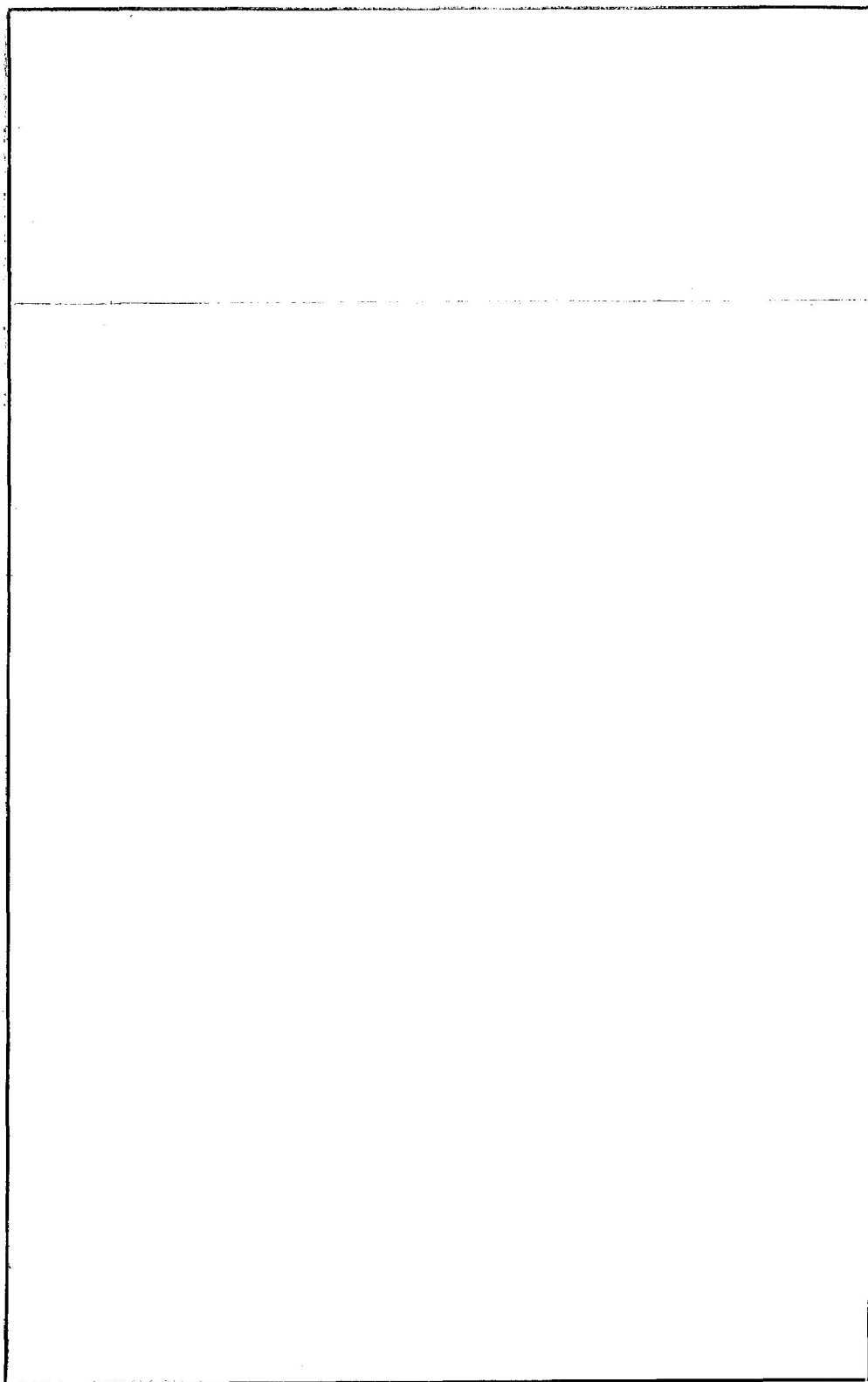
〔五〕て が で となる例……………二五

〔六〕でも が も となる例……………二六

〔七〕の が 添ふ例……………二七

〔八〕の になる例……………二九

〔九〕の に の 例……………二九



誤り易き語法

第一 動詞

〔一〕活用上の例

路傍に立てて置き^るに妨害になります。

水を器に移す^る時に……

よく思ふ^れば……

算術を學ぶ^るには……

親をうやま^{ない}ではいけません。

荷物を送^るれば……

筆を求^みました。

雨がまだ晴^りませんでした。

自動詞

一、概して四段活用の動詞は上一段活用及び下一段活用と混同し、又下一段活用の動詞は四段活用と混同する傾向あり。

〔二〕自動詞を用ふべき所に他動詞を用ふる例

疵が附けて破れました。

明月は中天に懸けて……

修繕中の壁がもう塗り上げた。

追々夏も近づけるので……

木の蔭で農夫が立てながら食つて居ます。

路傍に立ち止めて何をして居ますか。

他動詞

形勢は已に定め|て居ます。

舊年が換へ|て新年になる。

非常に有様が變へ|て居ますね。

水の形は三種に變へ|る。

〔三〕他動詞を用ふべき所に自動詞を用ふる例

花を澤山取り集つ|て……

請負人が工事を始|りました。

まだ書籍を返|らない。

子供を先に歸|りました。

耳に手を當|つて……

動詞と用言

〔四〕動詞と用言との接續上の例

良い習慣をついてやりたいと……

郡守が百姓ごもを勵みました。

弟が風を揚つて居ます。

そんなに強く押すやるな。

うそを言ふ給ふな。

懇に言ふ含めて……

氷水を飲む過ぎたので……

其れは聞くにくいことです。

大層凌ぐよくなりました。

一、四段活用の動詞にありては連用形を終止形に誤ること多し。

〔五〕動詞と名詞との接續上の例

其れとこれとは違ひ所があります。

敵を防ぎここが出来ます。

少々頼み事がありますから……

車が動き時は……

生命を奪ひ事があります。

悔いここにあるのは……

線路が壊れて汽車が通じ事が出来ません。

善に赴かう様につとめなければなりません。

一、概して連体形を連用形に誤ること多し。

動詞と助動詞

〔六〕動詞と助動詞との接續上の例

公園に行きたい。

これから學校に行きます。

金錢を費しない。

農業を進みなければなりません。

身を保つようこして……

子供を殺しようこしました。

孝行を盡しようと思つて……

ごんな質問を起しだらうか。

いつまでも樂しめだらう。

すぐ止めだらう。

注意するべきことです。

〔七〕動詞と助詞との接續上の例

あそこに行くさへすれば……

其れと違ひのは無いか。

子供達が貝を拾ふに往つた。

よく考へのが大切です。

隣では餅を搗き|やら笑ひ|やら……

相手を睨む|ながら……

見る|もせねば聞|くもせぬ。

微が生じ|かも知れんね。

活用

形容詞……に

第二 形容詞

〔一〕活用上の例

一番貴しいのです。

言ふことはやすしいが行ふことはむづかしい。

大層こはしい顔つきだ。

あれは軽々しい男だ。

貧しいくらしをして居ても……

〔二〕形容詞ににを添ふる例

道が廣いになる。

一人の友も無いになる。

だんく面白くなる。なつて來た。

氣候が暖いになれば……

水が深いになつたら……

家が貧しいになつたので……

大層よろしいになる。

一、形容詞を形容動詞に混同してにを添ふるに至る。

一、朝鮮語にては「水が深くなる」を「물이 깊게 된다」と表はすが故に、其直譯より上例の如き誤を來すことあり。

形容詞……な

〔三〕形容詞になを添ふる例

貴いな本。

重いな石。

狭いな路。

目出たいなこと。

羨しいな鳥。

悲しいな話。

苦しいなこと。

一、形容詞を形容動詞に混同してなを添ふるに至る。

一、朝鮮語にては「貴い本」を「貴重冊」「重い石」を「무거운 돌」を「表はすが故に、其の直譯より上例の如く誤るに至る。

形容詞……で、だ

〔四〕形容詞に で、だ を添ふる例

面白いでございます。

今日は蒸し暑いであります。

餘程早いだと思ひまして……

大層よろしいだと言つて……

長雨で鬱陶しうだ。

一、形容詞を形容動詞、指定の助動詞などに混同してで、だを添ふるに至る。

形容詞と名詞

形容詞と助動詞

形容詞と助詞

〔五〕形容詞と名詞、助動詞、助詞との接續上の例

ちよつと悪う氣味がするから仁丹を下さい。

そんな高く處へ上つて……

疚しくことをしない。

温度が高く時には昇り低く時には降ります。

心持がよろしです。

暑さ|ないのは不思議だ。

近頃雨があまり長いて困ります。

どうも暑いてたまりません。

天氣が好いて散歩に出ました。

色の青いを下さい。

親しい人がなくと困ります。

需用者が少く、物價がさがります。

第三 助動詞

〔二〕受身の例

泥棒が巡査につかまへて行きます。

先生に叱つて泣きました。

友達に負うて川を渡りました。

娘が電車にしいて怪我をした。

雲は皆風に吹きされます。

一、朝鮮語にてはれる、られるの如き受身を表はす特別なる語を使用すること少く、多くは通常の相を以て之を表はすが故に、國語に於ても上例の如き誤を來すに至る。

可能

一、「先生に叱られた」を「先生に叱りを聞いた」、「罰せられました」を「罰を當りました」の如き形を以て受身を表はすこと多し。

（二）可能の例

苦しいので堪へなくなりました。

この寒さでは老人などは凌ぎないでせう。

熱がさがつたので大層御飯が食べます。

どんなにうれしか知らない。

皆餓死するかも知りません。

品行を慎まなければ善い人にならないのです。

一、朝鮮語にはれる、られるの如き可能を表はす特別の語な

く、通常の相にて之を表はすが故に、國語に於ても上例の如き誤を來すに至る。

一、「食べられません」を「食べる」ことが出来ません、「行かれる」を「行く様になる」の如き形を以て可能を表はすこと多し。

〔三〕使役の例

彼は村民を飢ゑてはならぬと盡力しました。

弟を入學せようとしまして……

小使に手紙を持つてやりましたが……

一、朝鮮語にてはせる、させるの如き使役を表はす特別なる語を使用すること少く、多くは通常の相にて之を表はす

時

が故に、國語に於ても上例の如き誤を來すに至る。
一、子供を泣かせるを「子供を泣く様にする」、「小使に片附けさせなさい」を「小使に片附けと言ひなさい」の如き形を以て使役を表はすこと多し。

〔四〕時の例

私がこの學校に入學するのは昨年でした。
飲まうと思ひますが飲むことが出来ませんでした。
いつ迄かゝつても捕つて歸りますと思つて……
孝行を盡すとしたが……
本を買ふごしましたが……
盗むごするが盗めない。

殺してしまふ|ごしました。

澤山金を持つ|ようごする。

洗濯物を干し|ようごして居る。

一、四段活用にありては未來を表はすには、其の否定形に「う」を附け「持たう」「しまはう」の如く轉呼すべきを上例の如く或は現在を用ひ或は「よう」を附すること多し。

〔五〕なさる、いたす、まう、すごさる、などの省かる例

今はすっかりおなほりましたか。

御用心なればなりません。

父母がよくおやすむので……

今日は暑います。

先生をお招きます。

御様子をお知らせして下さい。

あなたは御散歩しましたか。

是非お勧めませうと思ひまして……

あの方はいつも私の身の上をお思ひます。

第四 助詞

に……が

〔一〕に が かなる例

病氣が罹つて……

戦争がなれば……

次第に青葉がなつて……

新年がなつたら……

下學する時間になるこ……

勉強して善い人になりたい。

遂に名高い學者が成りませう。

一、朝鮮語にては「なる」「出来る」の如き意を有する語の上に來

るには多くはイ或はフを以て表はす、然るにイ或はフは國語の^カに相當するが故に、其の直譯より上例の如き誤を來す。

に……を

〔二〕に^カを^カとなる例

弟は私を^カついて來ました。

小さな魚は波を^カしたがつて往來します。

人々の智識を^カしたがつて……

よい時節を^カ逢つたさて……

おつかさんを^カ別れて……

斯かる時代を^カ當つては……

公園を往つて來ました。

吾々を對するお話です。

先生の命令を服従する。

汽車を乗つて……

虎を向つて發砲しました。

人道を背いた行です。

學校を通ふのに……

父母の心をよく従つて……

之をよつて見る……

一朝鮮語にてはにを晝或は晝にて表はすこと多し、然るに晝或ハ晝は國語のをに相當するが故に、其の直譯より上例の如き誤を來す。

を……に

〔三〕をがにとなる例

虫の害にまぬかれます。

日に追うて進歩します。

志に立てる。

村民に集めて言ふには……

忠告にされた場合には……

一、二の例の如き關係よりををにに混同することあり。

が……を

て……で

〔四〕がをとなる例

梅の花を咲いた。

眞圓な月を映つて居ます。

私は其れをわかりません。

火を燃へ出した。

目を醒めた様に……

はじめて息子を生れました。

これを重なる原因です。

〔五〕てとなる例

水がさらくと流れて居る。

新しい袴を着て出かけます。

目的を立てて勉強しなさい。

小を捨てて大を取らう。

雨が晴れると出かけて見る積りだ。

字を書いて居る。

水銀を入れてある。

火をつけて下さい。

でも……も

〔六〕てもがもとなる例

蝙蝠は鳥もない獣もない。

奮發さへすれば何もやり上げられます。

何もない事をやかましく言つて居る。

一、もにあたる五はでもの意にも用ひらるゝにより上例の如く誤るに至る。

〔七〕のが添ふ例

吾々の青年は……

吾々の生徒は……

毎日の朝早く起きます。

昨日の學んだ會話が……

疑ふの事があるかも知れない。

喜ぶの事があつて……

美しいの花。

悪いの本。

親しいの間です。

目出たいの事があります。

なにの薬を飲ませても……

一、「吾々の青年」「吾々の生徒」の「の」は「私の帽子」「学校の生徒」などの「の」を誤用したるものなるべし。

一、朝鮮語にては形容詞と其の次に來る詞との間にはし、은、을、をなどを要す、然るにし、은、을、をなどは「の」と譯することあるにより「美しい花」「親しいの間」などの如く「の」を添ふるなるべし。

の

〔八〕の|になる例

古今内外の|行はれる道徳。

雑草の|除いて……

電氣などの|利用するには……

風の|揚げることも……

禁煙はむづかしいの|はありません。

夏のはじめですから暑いのは|ありません。

この模様では雨が降るの|はないでせう。

の
に

〔九〕の|にの例

其れは自然であるのに致し方がないでせう。
近頃不順であるのに御用心なさらなければなり
ません。

うれしい事があるのに笑ひ顔をして居ます。